

令和 5 年 5 月 11 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H00534

研究課題名(和文) ポスト古代ゲノム解読期における家畜化概念のヒューマンアニマルボンド的学融合刷新

研究課題名(英文) Interdisciplinary innovation of the concept of domestication in the period of post-ancient genome analysis

研究代表者

遠藤 秀紀 (Endo, Hideki)

東京大学・総合研究博物館・教授

研究者番号：30249908

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 24,100,000円

研究成果の概要(和文)：ゲノム解読競争に一面化した家畜化研究を改め、動物の命と人間が近接する局面としての「ヒューマンアニマルボンド」を学融合により比較総合することに取り組んだ。フィールドと標本の調査・蓄積に基づくりベラルアーツとして家畜と人間の関係を解析した。動物学、畜産学、農学、民俗学、生態人類学、民族学、形態学などを融合し、自然、文化、民俗、社会、民族、農業などの複雑な背景をもつアジア・インド洋圏から調査地を選定した。得られたデータからヒューマンアニマルボンドを理論化、ヒューマンアニマルボンドに基づいて新たな「家畜化モデル」を生み出し、その提唱と確立を推進した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

家畜を見る人間の姿勢は、近年急激に合理主義に傾いた。それは畜力が動力に置換されて消え、食料・畜産物生産の経済性だけに価値観を置く家畜の捉え方が全地球的に広まったからである。しかし、一万年に及ぶ家畜と人間の関係は、必ずしも合理主義的に成り立ってきたものではなく、生産性の低い品種や飼養とともに人間は農村を営み、文化、遊興、信仰に至るまで家畜と共存し、歴史や伝統や精神世界を築いてきたといえる。本研究の成果は、人と家畜の関係の実態を明確にし、ヒューマンアニマルボンドとして人間が家畜の命をどのように大切にしてきたかという、家畜と人類の在り方を提起する果実をもたらしている。

研究成果の概要(英文)：To change the domestication research that has been blocked by genome analysis, we have worked on interdisciplinary research on "human animal bond" as the aspect in which the lives of animals and humans are close to each other. We analyzed the relationship between livestock and humans as liberal arts based on field research and collection of specimens. Combining zoology, animal husbandry, agriculture, folklore, ecological anthropology, ethnology, morphology, mainly Asia and the Indian Ocean regions with complex backgrounds such as nature, culture, folklore, society, ethnicity, and agriculture, were selected as survey site. Based on the obtained data, we tried to theorize human animal bonds and we are innovating, proposing and establishing domestication models.

研究分野：家畜形態学

キーワード：家畜化 動物遺存体 分子系統解析 民俗 フィールド 農村社会 ヒューマンアニマルボンド 学融合

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初において、そして現在においても、ヒューマンアニマルボンド研究、すなわち人と動物の関係学が発展を続けている。それは、人類・人間社会が時代を問わずさまざまな生き物を相手に心を交錯させて共存してきたことを見据え、命を見る人間を学融合的に扱う研究領域として成立している。このヒューマンアニマルボンド研究は、野生動物を飼育し、家畜として成立させてきた人類誌の局面を理解するための、これ以上はない強力な研究理念と比較総合手法を示し続けているといえる。

他方、数年前の時点で、次世代シーケンサーが普及し、家畜化プロセスの解明として、集約化された研究グループによる動物考古学資料の古代ゲノム解析が、激しい国際競争のもとで進展していた。その弊害として、家畜化研究が単純化した分子生物学的系統解析のプライオリティ競争に陥り、人間と野生原種・家畜集団の間の多様な関係を考察し、家畜化の真の姿に迫ろうとする姿勢が蔑ろにされる風潮が生まれていた。古代ゲノム解読による家畜集団の系統的起源の把握が家畜化研究の唯一の最終目標であるかのように扱われ、背景には、農産物外交や生物資源をめぐる国際的主導権に繋がるかもしれないという、実利的動機すら見え隠れしていたと指摘できる。

こうした研究開始時の情勢下では、マテリアルエビデンスの蓄積を本質とするリベラルアーツに立脚し、幅広い研究領域からの多角的資料収集と総合論議を本質に据えた研究体制を構築する必要性が高まっていた。その状況は現在でも変わっていない。育種・品種創生が自然環境・文化・民俗・社会・民族・農業などの複雑な背景のもとで長期継承されてきたアジア・インド洋圏を解析対象にして、研究課題を起案する必要性は高まり続けている。その核心に在るのは、「動物の命と人・社会が出会い、融合し、また対峙したときに生起するヒューマンアニマルボンドの各局面を把握し、人・社会が動物の命に何を思い、何を求め、何を未来志向したかを把握すること」である。目標とする理論を「ヒューマンアニマルボンド家畜化モデル」に据えて、これまでの家畜化論議を刷新し、深化させる必要性が高まり、現在に至るまで学界のその好奇心の流れは継続しているといえよう。

家畜化のプロセスは人間と野生原種集団に生じる相互関係として注目されてきたが、家畜化過程の解明は困難を極めてきた。その理由は、第一に家畜化という現象が一定に長い時間を要するプロセスであり、そのプロセス自体が検出しやすい証拠として保存されにくいことが挙げられる。また、家畜化が、多彩な自然、文化、社会、歴史的基盤に影響される複雑な経過を経てきた事象であり、既存の伝統的学問体系の枠内では客観性の高い究明が難しい総合的な現象であることも、進展を困難とする理由である。数年前の時点で、家畜化プロセスを、動物学のみならず、生態人類学、文化人類学、民俗学、農村社会学、動物考古学から学融合的に比較・総合する体制を高度化する必要性がかつてなく高まっていた。また、博物館学術活動としてアジア圏の標本資料保全および情報蓄積体制の高度化を推進、アジア途上国での拠点研究機関・博物館システムを組織しながら、学術標本資料を高度に運用する必要性が叫ばれていたといえる。

生物学的手法に偏って依存したとりわけ分子系統学集約型研究体制では、蓄積かつ継承を求められる家畜化の真の究明は難しい。実際、たとえば中国北部から産出した最初期の家禽ニワトリとされる骨格は、同定を含め形態学・考古学の基礎的研究プロセスを慎重に経過せず、論理的信憑性に疑念が投げかけられた例である。研究開始当初において、こうした経緯から、単に時代の古さを競う還元分析的・集約投資的な考古学・分子系統学的家畜化議論では、家畜化を理解する理論づくりとしては脆弱で、狭小で断片的な主張しか生まれないことが危惧されていたといえる。ウシ、ウマ、ブタなどの系統論の当時の新説も、遺伝資源の研究に国家的に先鞭をつけるという、基礎研究の本質とは異なる価値観によって進められる場面が増え、ポスト古代ゲノム系統解析時代において、家畜化研究の立脚点が失われていると批判される状況を見せていた。

学界は、新たに多数の家畜種、多数の調査地域、多数の学問分野の融合、そして資料収集と比較総合による客観性の保証を具備した、大規模な「家畜化プロセス解析の総合化」を図る必要に迫られていたといえるだろう。そこで、多岐にわたる視点、地域、テーマを総合できる唯一の切り口として、本課題は「ヒューマンアニマルボンド家畜化モデル」を根幹に据えて開始された。家畜研究の基軸の新しい姿として、ヒューマンアニマルボンドに基づく理論構築を企図したのである。

## 2. 研究の目的

家畜化の実態は、単に集団遺伝学的閉鎖集団の人為的確立と制御でもなければ、食糧資源獲得という合理的生産性に目標を置く事象でもない。本研究計画は、遺伝学と畜産業が唱えた古典的で単純なストーリーを脱却し、先鋭的に進む考古学・分子遺伝学の分析論に依存することから論旨的距離をとり、ドメスティケーションを含む人と家畜の関係の真の経過を多面的に掘り下げ

るといふ特色と独創性を具備したものである。野生動物の狩猟から飼育と馴致に至る好奇心の集中、動物と共存することによる人側の精神世界の拡大、人の価値観を変動させる心の豊かさの希求、社会全体の平穏な求心力の成立に、現実のプロセスが関与したことは間違いない。純粋生物学のみでは沈滞した家畜に関する実質論議を、本研究プランは、ヒューマンアニマルボンドに立脚して刷新し、推進するものである。最終目的として達成される解明主題は、「人と社会は何を思い、動物の命と接し、共存してきたか」という、家畜と家畜化を語る巨大な本質的論題である。

この論題の推進は、必然的に、フィールド調査による学術資料収集と収蔵、研究拠点の確立なくしては成し得ない。アジア・インド洋圏に、博物館・学術資料収蔵研究体制の拠点づくりを継続し、現地由来の学術標本資料に関する、博物館学・文化財科学的未来像を提起できる研究体制を整えることも、本研究計画の目的の中心部分である。本計画の新しさは、資料の未来を正しく提案できる博物館学・文化財科学体制の担い手が研究継承水準を高度に保つという特性から生み出されるといえる。

人間と家畜の関係はそもそも多面的・複合的であり、旧来の自然科学・人文科学に分断されたままでの高度化が困難である以上、学融合による比較総合と実証を通じてこそ、家畜化概念を刷新する成果が得られると考えられ、本計画はそれを実践することを目的とした。家畜および家畜化ほど、学問領域の相互融合によって研究を続けねばならないテーマはないといえる。原種集団が系統的に同定され、家畜化の開始年代が分かればよいとされていた時代には、単一のテーマ設定による単純な研究体制によって一定の成果が得られるとされていた。しかし、それは研究体制として陳腐であると批判できる。本研究は、人間と動物の間柄を、単純な正誤判断の対象としてではなく、歴史性・普遍性・総合性をもった人と社会の精神的在り方とともに議論することを目的とした。

### 3. 研究の方法

学術研究の短期化・断片化・実学化の風潮において、真に家畜化現象の実態把握に向かうことのできる研究理念を創出し、その具体的比較総合の研究体制を運営することこそが、本研究課題の独自性と創造性を生む鍵であり、上述の目的に合致した研究方法となる。

本課題では、一万年レベルの歴史の中で進められてきた家畜化プロセスを決定してきた核心部として「ヒューマンアニマルボンド」を想定し、時間と場所を超えて成立し続けた動物の命と人・社会とのやり取りの実態を、精神世界と価値観にまで踏み込んで明らかにすることに挑戦することとした。具体的な研究の推進においては、いまま粗放的・非管理的に家畜を飼育し、家畜と野生動物集団との境界線が曖昧なままに残存し、家畜化と品種創生プロセスの要素を現在進行形で見ることのできる地域として、アジアおよびインド洋圏に着目した。同地域からヒューマンアニマルボンドを解析できる場所とテーマを抽出し、生物学、農学と人文学を融合する手法で、「人側から」と「動物側から」の両サイドの立ち位置をもって、家畜化現象を把握、理論化することに取り組んだ。

およそ10の地域とテーマを比較・総合しつつ、解析を進めることとした。具体的な研究の柱を以下に記す。

セキショクヤケイと家禽化の問題については、タイとラオスにおいて、農村がヤケイの分布域にあり、農民は生け捕りや囿の作出、家禽の再野生化を通じてヤケイとの関連を保ち続けている。在来鶏に囲まれた農村地帯が、ヤケイと家禽の間にどのような精神世界を築いているかを調査することとした。骨格や血液などの解析資料がカウンターパートによって収集されているため、セキショクヤケイの大規模な形態学・分子遺伝学的分析を遂行、ミトコンドリア遺伝子とマイクロサテライト遺伝子により系統関係を解析し、骨格計測により形態学的適応を検討することとした。バングラデシュ集団については、遺伝学的にも形態学的にも独自の進化を遂げた個体群であると予測されてきている。そこで、バングラデシュ集団の、他集団に対する特異的アイデンティティを把握することを試みた。

イノシシとブタを用いた家畜化経緯、捕獲・飼育・育種開始プロセスのテーマとして、ベトナムの考古学資料を検討対象とすることにした。ベトナムでは動物考古学的なアプローチにより飼育プロセスの成立を議論した。また、スリランカではイノシシの特異な放飼状態が残っているため、文献を含め検討対象とした。一方比較対象として、欧州中央部で長い伝統をもつハンガリーから、マンガリツァ豚の飼育へ向けた今日的価値観を、飼育実態の比較総合から検討することを試みた。

最貧国で粗放的な大きな集団をつくるヤギをバングラデシュ等からの情報で検討することを狙った。インドから西アジアにかけてのヤギの遺伝学的変異と品種分布が十分に分からない中で、人々が小型反芻獣とともに生きる社会背景と、家畜の命に対する価値観を調査し、その根拠となる資料探索を進めることとした。

また、人々が家畜を見る目線のゆらぎは、飼育社会の民族性や伝統、歴史によって大きな影響

を受ける。そこで、多民族を比較可能なベトナム、タイでは、異なる民族基盤をもつ農村を調査し、人間側の心象が伝統や民俗や文化によって固定されていく内容を検証した。コロナ情勢から、モン族、キン族、タイ族、アカ族などの民族間比較は困難であると推測されたが、食文化や信仰に基づく、先進国の合理的畜産業とは異なる品種や飼養や消費に対する特異な価値観を、当地の調査と既存資料から論議することを試みた。

家畜化の世界的起源と動物考古学のテーマとして、近東から地中海周辺欧州の検討を企図した。新型コロナ肺炎下の社会情勢から現地調査と新規資料獲得は困難と考えられたが、野生反芻獣の捕獲消費から家畜化への変遷を、正確な同定と年代推定をもって理論化することを試みた。

以上の地域に関連させて、ヒューマンアニマルボンドが成立して家畜化・育種改良が進む原種・地域の候補と、成功に至らずに家畜としては放棄される集団・地域の間、ヒューマンアニマルボンドとしてどのような本質的異同が成立するのかを検証し、理論化することを試みた。家畜化の鍵はヒューマンアニマルボンドにあり、その実態を網羅的かつ要因的に解析することを研究計画の骨子とした。

なお新型コロナ肺炎による情勢の急激な変化に対応し、現地調査の一定部分を文献学や既存資料調査で代替するという視野に入れて研究に取り組んだ。そのため真の意味での現地フィールド調査が成しうる成果とは質的に異なる場合が生じたといえる。この状況に対しても代替と補完により、極力高度な研究成果を追求した。

調査地には、多面的な人と動物の関係が、自然環境的・地勢的・文化的に成立している地域が多いため、十分な現地調査と資料解析を深化させることを研究計画の根幹に据えた。本課題の長期的成否を決めるのは、東南アジアからインド洋圏、西アジア方面にかけて、カウンターパート側でのリベラルアーツを進展させ、該当地域の学術・文化の多様化と継承を目標に、研究体制を堅固なものに発展させるよう努めた。

多面的現地調査を通じて、現物を収集、データを解析し、成果を発信することは、各途上国の学術資料研究体制の在り方と多角的なリベラルアーツを先導する責任を担うことと等しい。現組織の構成員は既に途上国現地調査の試みに多大な労を割いてきた研究陣であるが、家畜化という解明難解な事象を扱うにあたり、これまでよりもより高精度で緻密な拠点研究体制を調査フィールドに拡大する必要性を認めた。学融合意識と拠点研究体制によって、対象への多面的なアプローチを継続した。

研究分担者と研究協力者は各専門領域を融合し、視点を多様化させるとともに、分析の再現性を高め、学際による相互批判を通じて、家畜化事象を多角化に論議した。研究期間を通じて、各ディシプリンからは以下の研究メンバーを配置した。学融合体制を徹底し、ヒューマンアニマルボンドによる家畜化の真なる実態を究明する体制を整えた。

「家畜形態学領域」：骨学と機能形態学・・遠藤、恒川、ワングホングサ、ングイエン

「分子遺伝学領域」：育種と古代 DNA 解析・・佐々木、米澤、ラコトンドラパラニ、ゼイン、リュウ

「博物館学・文化財科学領域」：資料キュレーティング・・遠藤、池谷、本郷、恒川、中井

「動物考古学領域」：遺跡動物骨の発掘と解析・・本郷、ショーコングデイ、オズドアン、ユアン

「動物・家畜生態学領域」：動物の行動特性の定量化・・押田、佐々木、ングイエン、ピンパチャンウォングソッド、ゼイン、ファルーク

「農村社会学・生態人類学領域」：狩猟と農村の関連の解明・・池谷、園江、シティサン、ナナン、ブラセティジョ

「人文地理学・農村地域研究領域」：飼育動機と命を見る心象の比較解析・・遠藤、中井

「民俗学・文化人類学領域」：価値観と好奇心の解明・・池谷、中井、園江、シティサン

リベラルアーツ研究体制、学融合の重視を、調査国・カウンターパートとともに徹底した。十分な現物資料を対象にした研究体制を現地に定着させ、収集・収蔵と解析の重要性を、関係国に認識・理解させることに重点を置いた。

#### 4. 研究成果

リベラルアーツ研究体制の成果として、単一テーマに関して深まった結果を得るのみならず、相互に広く関連した学融合的結果を多々得たといえる。以下に成果を述べる。

家禽に関しては、セキショクヤケイについて、地理的変異を把握することができた。これまでにない形態学的データを収集、過去 100 年近く議論が改まらなかったセキショクヤケイの地理的変異性を把握することができた。一方、多用途に育種される家禽ニワトリに対して、筋骨格系の機能的スペックがどのように形態学的に推移したかを、筋肉重量をもとに論議することができ、家禽化と育種についても形態学からの成果が大きかった。

家畜の四肢遠位の運動性に関して、偶蹄類と奇蹄類を用いて、各関節の可動性から議論を深めた。ヤギ・ヒツジ類を含めた議論で、傾斜地・高山への適応として、手根・足根部から指骨・趾

骨に向けた関節可動性の進化的変異を見出すことができた。体重適応と並行して、飼育される土地の勾配条件に適応して、四肢遠位の外転・内転特性に違いが生じることが明らかとなった。原種を選択する際にもこの要素は無視できなかつたと考えられ、湿地適応も含めて、野生原種集団の家畜化条件として四肢運動器特性は注目に値する。

鼻腔領域の三次元的検討も進めることができた。暑熱寒冷適応という一応の論理はあるものの、実際の鼻腔領域の変形拡大縮小を説明する理論の確立にはさらなるデータ蓄積が必要だと考えられた。

ウマに関しては、愛玩用途の小型品種の標本を収集することができ、骨格を中心に三次元データの解析を行った。今後、競走用品種や輓系品種との機能形態学的比較が期待される。

分子遺伝学では、インドネシアの在来ヤギや、広くアジアのウシのハプログループの位置づけを検討した。また、中国との共同研究によりヤクの遺伝学的背景を把握した。さらに、日本の地鶏概念に対して、分子系統学的なアイデンティティの確立を試み、実際に地鶏と総称されるニワトリ集団の遺伝学的相互関係の解明を進めた。

こうした一連の家畜の生物学的研究成果を、人文科学とされている領域と隔てることなく融合するのが本計画課題である。アジア・インド洋圏に関して徹底して生態人類学・環境人類学的に検証し、狩猟採集の実態を把握するとともに、現代に近づくにつれてそれが社会相互間で結びつきをもって変化してきた姿を捉えた。資本主義的合理経済に対して、効率性のともなわないヒューマンアニマルボンドが該当地域でどう支えられ、また継続しているかを議論することができた。それは家畜化・ドメスティケーションの核心部分をどのように想定し、狩猟の精神世界をどう解釈するかという課題とも密接であった。

東南アジアからはラオスとタイを中心に、現代家畜飼養に向けられる人間社会からの期待と未来像が検討に加えられ、東南アジアの新たな家畜像を見出すことができた。タイ北部のモン族を集中的に検討し、焼畑に伴う家畜飼養の実態を現地調査のデータから解明した。また、ラオスを中心に養蜂に関しての実態調査を進め、インドシナ半島における種が異なり様式も相違する養蜂をテーマに、人と動物の関係を論議するに至った。

動物考古学的には歯牙表面のマイクロウェア解析から、偶蹄類の飼育証拠の客観的抽出を試み、一定の成果を得たと考える。遺跡出土資料の解析において、家畜化の経過と並んで飼育の客観的評価が長く課題とされてきたが、本研究が進めたマイクロウェア解析は、そこに飛躍的進歩をもたらしているといえる。また動物考古学的検討対象として新石器時代の中国を扱い、とくに北方と南方の家畜化経緯の相違を検討することに成功した。これは、謎の多い中国領域の家畜飼養の歴史学的変遷を検証するものであり、近東やインドなどとの比較総合が待たれる経過となった。また欧州からはキプロスに関連した野生原種や初期の家畜の骨格に関して、詳細な形態比較を進め、近東から地中海領域にかけてのドメスティケーションの推移を比較総合する視点に近づいたといえる。

ゲノム解読競争に一面化した家畜化研究を改め、動物の命と人間が近接する局面としての「ヒューマンアニマルボンド」を学融合により比較総合することに取り組んだ。こうした一連の研究成果から、新しいドメスティケーション像とヒューマンアニマルボンドの研究が進捗し、新たな人と家畜の関係誌をリベラルアーツとして打ち立てていくことができたといえる。人間と動物の関係・ヒューマンアニマルボンドを念頭にした家畜化の実態、飼育育種の史的変遷、各時代と地域における社会からの家畜の受容において、新しいセオリーを提起し、確立することができた。とくに「家畜化モデル」に関しては、それを刷新する結果を得たといえる。今後の課題として、家畜の生物学のみならず人間の側の検討をより深め、家畜に向けられる、あるいは命に向けられる人間の精神世界の掘り下げが求められていると考えるに至った。今後の研究の立脚点に、最低でも過去一万年に及ぶ人間の「心」を重視するべきだという結論をもった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計49件（うち査読付論文 39件 / うち国際共著 22件 / うちオープンアクセス 24件）

1. 著者名 Nagata Junco, Haga Atsushi, Kusachi Yuki, Tokuyoshi Mikuni, Endo Hideki, Watari Yuya	4. 巻 47
2. 論文標題 Cats were Responsible for the Headless Carcasses of Shearwaters: Evidence from Genetic Predator Identification	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Mammal Study	6. 最初と最後の頁 197 ~ 204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3106/ms2021-0047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Suzuki, C., Sasaki, M., Tsuzuki, N., Kayano, M., Yamada, K., Ishiguro, N., Taru, H., Matsuda, W., Endo, H., Kikuchi, T., Kikuchi, K. and Kitamura, N.	4. 巻 85
2. 論文標題 Quantative CT analysis of the skull in the Japanese wolf (Canis phodophilax).	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Veterinary Medical Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Yonezawa Takahiro, Nishibori Masahide, Yamamoto Yoshio, Sasaki Takeshi, Kudo Kohei, Ogawa Hiroshi, Endo Hideki, Akishinonomiya Fumihito	4. 巻 59
2. 論文標題 Complete Mitochondrial Genome Analysis Clarifies the Enigmatic Origin of Haplogroup D in Japanese Native Chickens	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Journal of Poultry Science	6. 最初と最後の頁 316 ~ 322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2141/jpsa.0220027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yamada Eisuke, Hongo Hitomi, Endo Hideki	4. 巻 132
2. 論文標題 Analyzing historic human-suid relationships through dental microwear texture and geometric morphometric analyses of archaeological suid teeth in the Ryukyu Islands	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Archaeological Science	6. 最初と最後の頁 105419 ~ 105419
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jas.2021.105419	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 AMAIKE Hayato, SASAKI Motoki, TSUZUKI Nao, KAYANO Mitsunori, OISHI Motoharu, YAMADA Kazutaka, ENDO Hideki, ANEZAKI Tomoko, MATSUMOTO Naoya, NAKASHITA Rumiko, KUROE Misako, TARU Hajime, BANDO Gen, IKETANI Yuko, NAKAMURA Ryohei, SATO Nobutaka, FUKUI Daisuke, KITAMURA Nobuo	4. 巻 83
2. 論文標題 Mobility of the forearm skeleton in the Asiatic black (Ursus thibetanus), brown (U. arctos) and polar (U. maritimus) bears	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Veterinary Medical Science	6. 最初と最後の頁 1284 ~ 1289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1292/jvms.21-0198	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Endo Hideki, Tsunekawa Naoki, Kudo Kohei, Oshida Tatsuo, Motokawa Masaharu, Sonoe Mitsuru, Wanghongsawai, Tirawattananich Chanin, Phimpachanhvongsod Viengsavanh, Sasaki Takeshi, Yonezawa Takahiro, Akishinomiya Fumihito	4. 巻 338
2. 論文標題 Comparative morphological study of skeletal muscle weight among the red jungle fowl (Gallus gallus) and various fowl breeds (Gallus domesticus)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Experimental Zoology Part B: Molecular and Developmental Evolution	6. 最初と最後の頁 542 ~ 551
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jez.b.23111	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Vu Duong Thuy, Nguyen Son Truong, Motokawa Masaharu, Ly Tu Ngoc, Dang Phuong Huy, Bui Hai Tuan, Le Minh Duc, Endo Hideki, Oshida Tatsuo	4. 巻 86
2. 論文標題 A new subspecies of Finlayson's squirrel from an isolated island offshore of the Indochina Peninsula in southern Vietnam	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Mammalia	6. 最初と最後の頁 66 ~ 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/mammalia-2021-0015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakai, Shinsuke and Kazunobu Ikeya	4. 巻 106
2. 論文標題 Mobility and the Continuity of the Relationship between Hunter-gatherers and Farmers in Thailand.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 181 ~ 194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本郷一美	4. 巻 37
2. 論文標題 ヒマラヤにおける家畜利用：高地の考古遺跡から出土した動物骨から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ピオストーリー	6. 最初と最後の頁 38～40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hongo Hitomi, Kikuchi Hiroki, Nasu Hiroo	4. 巻 11
2. 論文標題 Beginning of pig management in Neolithic China: comparison of domestication processes between northern and southern regions	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Animal Frontiers	6. 最初と最後の頁 30～42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/af/vfab021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Cucchi Thomas, Domont Auriale, Harbers Hugo, Evin Allowen, Alcantara Fors Roger, Sana Maria, Leduc Charlotte, Guidez Aurelie, Bridault Anne, Hongo Hitomi, Price Max, Peters Joris, Briois Francois, Guilaine Jean, Vigne Jean-Denis	4. 巻 11
2. 論文標題 Bones geometric morphometrics illustrate 10th millennium cal. BP domestication of autochthonous Cypriot wild boar ( <i>Sus scrofa circeus</i> nov. ssp)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 11435
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-021-90933-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Gojobori Jun, Arakawa Nami, Xiayire Xiaokaiti, Matsumoto Yuki, Matsumura Shuichi, Hongo Hitomi, Ishiguro Naotaka, Terai Yohey	4. 巻 -
2. 論文標題 The Japanese wolf is most closely related to modern dogs and its ancestral genome has been widely inherited by dogs throughout East Eurasia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1101/2021.10.10.463851	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する



1. 著者名 Hayato Kikuchi, Shigeyuki Izumiyama and Tatu Oshida	4. 巻 21
2. 論文標題 Does communal nesting help thermoregulation in Japanese flying squirrels ( <i>Pteromys momonga</i> ) in winter?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Russian Journal of Theriology	6. 最初と最後の頁 38 ~ 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mishina Tappei, Takeshima Hirohiko, Takada Mikumi, Iguchi Kei ' ichiro, Zhang Chunguang, Zhao Yahui, Kawahara-Miki Ryouka, Hashiguchi Yasuyuki, Tabata Ryoichi, Sasaki Takeshi, Nishida Mutsumi, Watanabe Katsutoshi	4. 巻 11
2. 論文標題 Interploidy gene flow involving the sexual-asexual cycle facilitates the diversification of gynogenetic triploid <i>Carassius</i> fish	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 22485
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-01754-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 西角光平, 稲永敏明, 西明仁, 米澤隆弘, 野口龍生, 鳥居恭司, 今川和彦, 小林朋子	4. 巻 26
2. 論文標題 褐毛和種におけるBoLA-DRB3遺伝子の多様性解析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獣医疫学雑誌	6. 最初と最後の頁 108-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Segawa Takahiro, Yonezawa Takahiro, Mori Hiroshi, Kohno Ayako, Kudo Yuichiro, Akiyoshi Ayumi, Wu Jiaqi, Tokanai Fuyuki, Sakamoto Minoru, Kohno Naoki, Nishihara Hidenori	4. 巻 32
2. 論文標題 Paleogenomics reveals independent and hybrid origins of two morphologically distinct wolf lineages endemic to Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Current Biology	6. 最初と最後の頁 2494 ~ 2504.e5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cub.2022.04.034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nishikaku Kohei, Yonezawa Takahiro, Nishibori Masahide, Harada Masashi, Kawaguchi Fuki, Sasazaki Shinji, Torii Yasushi, Imakawa Kazuhiko, Kawai Kuniko, Liu Jianquan, Mannen Hideyuki, Kobayashi Tomoko	4. 巻 13
2. 論文標題 Phylogenomics and Spatiotemporal Dynamics of Bovine Leukemia Virus Focusing on Asian Native Cattle: Insights Into the Early Origin and Global Dissemination	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Microbiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fmicb.2022.917324	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Segawa Takahiro, Yonezawa Takahiro, Mori Hiroshi, Akiyoshi Ayumi, Allentoft Morten E., Kohno Ayako, Tokanai Fuyuki, Willerslev Eske, Kohno Naoki, Nishihara Hidenori	4. 巻 8
2. 論文標題 Ancient DNA reveals multiple origins and migration waves of extinct Japanese brown bear lineages	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Royal Society Open Science	6. 最初と最後の頁 210518 ~ 210518
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsos.210518	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Osman Sayed A.-M., Nishibori Masahide, Yonezawa Takahiro	4. 巻 34
2. 論文標題 Complete mitochondrial genome sequence of Tosa-Jidori sheds light on the origin and evolution of Japanese native chickens	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Animal Bioscience	6. 最初と最後の頁 941 ~ 948
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5713/ajas.19.0932	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中井信介	4. 巻 177
2. 論文標題 移動する民モンの焼畑変容	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 52 ~ 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤秀紀	4. 巻 175
2. 論文標題 命の重さを量る	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 14~21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田英佑	4. 巻 773
2. 論文標題 遺跡出土イノシシ属から探る琉球列島の動物利用文化史	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 31~34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sano Katsuhiko, Beyene Yonas, Katoh Shigehiro, Koyabu Daisuke, Endo Hideki, Sasaki Tomohiko, Asfaw Berhane, Suwa Gen	4. 巻 117
2. 論文標題 A 1.4-million-year-old bone handaxe from Konso, Ethiopia, shows advanced tool technology in the early Acheulean	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences, U.S.A.	6. 最初と最後の頁 18393~18400
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.2006370117	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 高槻成紀、吉田将崇、武田精一郎、遠藤秀紀	4. 巻 31
2. 論文標題 オスジカ頭骨標本を収蔵するラックの提案	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 麻布大学雑誌	6. 最初と最後の頁 67-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yonezawa, T., Tsudzuki, M., Imamura, Y., Matsuzaki, M., Matsunaga, S., Fukagawa, S., Ogawa, H., Sasaki, T., Akishinonomiya, F. and Yamamoto, Y.	4. 巻 CL
2. 論文標題 The origin and history of native Japanese chickens based on the mitochondrial DNA.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Archivio per l'Antropologia e la Etnologia	6. 最初と最後の頁 67-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mannen Hideyuki, Yonezawa Takahiro, Murata Kako, Noda Aoi, Kawaguchi Fuki, Sasazaki Shinji, Olivieri Anna, Achilli Alessandro, Torroni Antonio	4. 巻 10
2. 論文標題 Cattle mitogenome variation reveals a post-glacial expansion of haplogroup P and an early incorporation into northeast Asian domestic herds	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 20842
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-78040-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Mannen Hideyuki, Iso Kenta, Kawaguchi Fuki, Sasazaki Shinji, Yonezawa Takahiro, Dagong Muhammad Ihsan Andi, Bugiwati Sri Rachma Aprilita	4. 巻 91
2. 論文標題 Indonesian native goats ( <i>Capra hircus</i> ) reveal highest genetic frequency of mitochondrial DNA haplogroup B in the world	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Animal Science Journal	6. 最初と最後の頁 e13485
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/asj.13485	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yonezawa Takahiro, Nishibori Masahide	4. 巻 5
2. 論文標題 The complete mitochondrial genome of the Japanese rock ptarmigan ( <i>Lagopus muta japonica</i> ) Clark, 1907)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Mitochondrial DNA Part B	6. 最初と最後の頁 1648 ~ 1649
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/23802359.2020.1746207	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsumura Shuichi, Terai Yohey, Hongo Hitomi, Ishiguro Naotaka	4. 巻 38
2. 論文標題 Analysis of the Mitochondrial Genomes of Japanese Wolf Specimens in the Siebold Collection, Leiden	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Zoological Science	6. 最初と最後の頁 60-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2108/zs200019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohari Yuma, Hayashi Kei, Mohanta Uday Kumar, Oshida Tatsuo, Itagaki Tadashi	4. 巻 40
2. 論文標題 Phylogenetic relationships between Lymnaeidae in relation to infection with Fasciola sp. in Hokkaido, Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Molluscan Research	6. 最初と最後の頁 160 ~ 168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13235818.2020.1716497	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Arisawa H., Uraguchi K., Kouguchi H., Oshida T.	4. 巻 19
2. 論文標題 Note on consumption of fox bait by alien raccoons in eastern Hokkaido, Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Russian Journal of Theriology	6. 最初と最後の頁 178 ~ 182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15298/rusjtheriol.19.2.08	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Liu Po-Yu, Cheng An-Chi, Huang Shiao-Wei, Lu Hsiao-Pei, Oshida Tatsuo, Liu Wenhua, Yu Hon-Tsen	4. 巻 10
2. 論文標題 Body-size Scaling is Related to Gut Microbial Diversity, Metabolism and Dietary Niche of Arboreal Folivorous Flying Squirrels	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 7809
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-64801-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tajima M., Hata A., Nakashita R., Sasaki K., Matsumoto N., Tomiyasu J., Takada M.B. and Oshida T.	4. 巻 41
2. 論文標題 Hair growth of brown bears during winter.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 帯広畜産大学学術研究報告	6. 最初と最後の頁 61-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中井信介	4. 巻 34
2. 論文標題 生き物を「飼う」動機について タイ山村におけるモン族の暮らしから	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ピオストーリー	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田英佑	4. 巻 52
2. 論文標題 哺乳類類歯からの食性復元	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 化石研究会誌	6. 最初と最後の頁 64-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Price Max, Hongo Hitomi	4. 巻 28
2. 論文標題 The Archaeology of Pig Domestication in Eurasia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Archaeological Research	6. 最初と最後の頁 557 ~ 615
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10814-019-09142-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Endo Hideki, Nguyen Son Truong, Yoshida Masataka, Kudo Kohei	4. 巻 48
2. 論文標題 Three dimensional CT observation of position and movability of the scapula in the horse using carcasses of Falabella	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Anatomia, Histologia, Embryologia	6. 最初と最後の頁 250 ~ 255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ah.12430	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ito Kai, Endo Hideki	4. 巻 81
2. 論文標題 The effect of the masticatory muscle physiological cross-sectional area on the structure of the temporomandibular joint in Carnivora	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Veterinary Medical Science	6. 最初と最後の頁 389 ~ 396
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1292/jvms.18-0611	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tu L.N., Hai B.T., Motokawa M., Oshida T., Endo H., Abramov A.V., Kruskop S.V., Minh N.V., Duong V.T., Minh L.D., Tham N.T., Rawson B., Son N.T.	4. 巻 18
2. 論文標題 Small mammals of the Song Thanh and Saola Quang Nam Nature Reserves, central Vietnam	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Russian Journal of Theriology	6. 最初と最後の頁 120 ~ 136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15298/rusjtheriol.18.2.08	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Endo H.	4. 巻 24
2. 論文標題 Changes of the situation inside and outside of the zoo and future of the research	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine	6. 最初と最後の頁 59-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Osman Sayed A.-M., Nishibori Masahide, Yonezawa Takahiro	4. 巻 34
2. 論文標題 Complete mitochondrial genome sequence of Tosa-Jidori sheds light on the origin and evolution of Japanese native chickens	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian-Australasian Journal of Animal Sciences	6. 最初と最後の頁 941-948
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5713/ajas.19.0932	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sanamxay Daosavanh, Douangboubpha Bounsavane, Xayaphet Vilakhan, Paphaphanh Phetphoumin, Oshida Tatsuo, Motokawa Masaharu	4. 巻 44
2. 論文標題 First Record of Petinomys setosus (Rodentia: Sciuridae: Pteromyini) from Lao PDR	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Mammal Study	6. 最初と最後の頁 141-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3106/ms2018-0053	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Mitsuzuka W., Kato M., Oshida T.	4. 巻 86
2. 論文標題 Seasonal pelage color change of two sympatric arboreal squirrel species in the subarctic region	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The European Zoological Journal	6. 最初と最後の頁 443 ~ 451
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/24750263.2019.1682694	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部貴之, 藤田 航, 二場一光, 山下聡子, 鈴木野々花, 山口 翠, 土佐泰志, 橋本湊奈, 内海泰弘, 押田龍夫	4. 巻 40
2. 論文標題 北海道東部における天然生落葉広葉樹林の樹洞資源の特徴 - エゾモモンガの樹洞資源利用性に着目して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 帯広畜産大学学術研究報告	6. 最初と最後の頁 40-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 黒澤弥悦、池谷和信	4. 巻 31
2. 論文標題 変わりつつあるイノシシと人の関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ピオストーリー	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hongo, H., Arai, S., Takahashi, R., Gundem, C.Y.	4. 巻 15
2. 論文標題 Transition to food production suspended - a remarkable development in the Eastern Upper Tigris Valley, South Anatolia.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 2016 international symposium, Munich, Germany. Documenta Archaeobiologiae	6. 最初と最後の頁 155-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Price Max, Hongo Hitomi	4. 巻 28
2. 論文標題 The Archaeology of Pig Domestication in Eurasia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Archaeological Research	6. 最初と最後の頁 557 ~ 615
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10814-019-09142-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Frantz Laurent A. F. et.al.	4. 巻 116
2. 論文標題 Ancient pigs reveal a near-complete genomic turnover following their introduction to Europe	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences	6. 最初と最後の頁 17231 ~ 17238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.1901169116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 本郷一美	4. 巻 73
2. 論文標題 ヒツジ・ヤギの家畜化（動物考古学における家畜の研究(6)）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 畜産の研究	6. 最初と最後の頁 853-862
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計41件（うち招待講演 9件／うち国際学会 5件）

1. 発表者名 遠藤秀紀
2. 発表標題 進化学的視点による運動器の理解
3. 学会等名 第59回日本リハビリテーション医学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田英佑、遠藤秀紀
2. 発表標題 家畜イヌとオオカミの臼歯輪郭形状に対する幾何学的形態解析
3. 学会等名 日本動物考古学会第9回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武田精一郎、遠藤秀紀
2. 発表標題 半蹄行性動物肢端部の三次元データから見る蹄行性進化に伴う骨形態変化
3. 学会等名 日本哺乳類学会2022年三重大学大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 遠藤秀紀
2. 発表標題 ヒトの腰痛の生物学的考察
3. 学会等名 第30回日本腰痛学会 特別講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 遠藤秀紀
2. 発表標題 脊椎動物史5億年をかたちから解く
3. 学会等名 第50回日本脊椎脊髄病学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田精一郎・遠藤秀紀
2. 発表標題 ウシ科における中手指節関節・中足趾節関節の形態と指・趾の可動性
3. 学会等名 日本哺乳類学会2021年東京農大大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青塚圭一・遠藤秀紀
2. 発表標題 鳥類の踵関節・臼間突起の機能についての解剖学的考察
3. 学会等名 日本鳥学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 遠藤秀紀
2. 発表標題 ヒトの形 その戯れの500万年
3. 学会等名 第46回日本足の外科学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 K. Ikeya and S. Kadowaki
2. 発表標題 Ethno-archaeological approach to water sources and bird hunting near Paleolithic sites in the Jebel Qalkha area, southern Jordan
3. 学会等名 ASWA XV International Meeting（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 ツンドラと人とのかかわり方 - ロシア北東部チュコトカの事例 -
3. 学会等名 北海道地理学会 春季学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 ダチョウと人とのかかわりー肉・卵・羽根
3. 学会等名 生き物文化誌学会第19回学術大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 シヨケットシャイラー、本郷一美、寺井洋平、覚張隆史、河西健二、町田賢一、山路直充、山崎京美
2. 発表標題 古代DNAの全ゲノム解析による、縄文時代出土犬骨の系統
3. 学会等名 日本考古学協会第88回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本郷一美
2. 発表標題 遺跡出土動物骨から家畜化過程を探る
3. 学会等名 日本遺伝学会第94回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本郷一美
2. 発表標題 Mani (Orang Asli) の民族-動物考古学：サカイ洞窟（タイ，トラン群）出土動物骨
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 本馬維子，佐々木乃梨，矢野呼春，田辺結葉，照内歩，村上董，菊池隼人，内海泰弘，押田龍夫
2. 発表標題 北海道の天然生広葉樹林に生息するエゾモモンガ <i>Pteromys volans orii</i> の資源利用
3. 学会等名 日本哺乳類学会2022年三重大学大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 櫻井祐奈, 浦口宏二, 孝口裕一, 押田龍夫
2. 発表標題 北海道芽室町における野生動物によるキツネ駆虫用ベイトの摂取試験
3. 学会等名 日本哺乳類学会2021年東京農大大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 園江満
2. 発表標題 ラオス北部における伝統的養蜂技術
3. 学会等名 日本熱帯農業学会 第 133 回講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 園江満
2. 発表標題 ラオス北部におけるハリナシミツバチ養蜂
3. 学会等名 日本熱帯農業学会 第 133 回講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中井信介・池谷和信
2. 発表標題 モンsoon林山地における狩猟採集民ムラブリの移動と生業
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中井信介
2. 発表標題 タイにおける焼畑民のタケ利用の視点から
3. 学会等名 生き物文化誌学会第85回例会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田晴日, 佐々木 基樹, 山田 一孝, 都築 直, 遠藤 秀紀, 福井 大祐, 坂東 元, 袖原 和敏, 藤本 智, 北村 延夫
2. 発表標題 大型陸生哺乳類3種における手骨格可動性の比較形態学的研究
3. 学会等名 第163回日本獣医学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池谷和信
2. 発表標題 キリンとラクダ：アフリカの先住民の世界
3. 学会等名 生き物文化誌学会第79回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 寺井洋平、五條堀淳、本郷一美、松村秀一、石黒直隆
2. 発表標題 日本犬の成立に寄与したニホンオオカミのゲノム領域
3. 学会等名 日本進化学会第22回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kudo, K., Endo., H. and Ogawa, H.
2. 発表標題 The relationships between chromatic characteristics of Japanese indigenous fowls and the motivation for breeding
3. 学会等名 The 2nd International Conference on Native Chicken 2019 (ICONC 2019) & The 2nd International Conference on Tropical Animal Science and Production 2019 (TASP 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木千尋、佐々木基樹、都築 直、茅野光範、石黒直隆、山田一孝、遠藤秀紀、菊地智景、菊地 薫、北村延夫
2. 発表標題 二ホンオオカミ(Canis lupus hodophilax)頭蓋内部構造の定量的および形態学的解析
3. 学会等名 第162回日本獣医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天池隼斗、佐々木基樹、都築 直、大石元治、山田一孝、遠藤秀紀、姉崎智子、松本直也、中下留美子、黒江美紗子、樽 創、坂東 元、福井大祐、中村亮平、佐藤伸高、北村延夫
2. 発表標題 クマ科動物の前腕骨格可動域
3. 学会等名 日本哺乳類学会2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丁 銘浚、佐々木基樹、都築 直、遠藤 秀紀、田島 木綿子、鈴木 千尋、北村 延夫
2. 発表標題 カワウソ亜科3種における頭部のCT画像解析
3. 学会等名 第25回日本野生動物医学会大会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Nojiri, T., Werneburg, I., Nguyen Truong Son, Vuong Tan Tu, Saitoh, T., Fukui, D., Endo, H., Koyabu, D.
2. 発表標題 Does prenatal development support a single origin of laryngeal echolocation in bats?
3. 学会等名 2019日本進化学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Endo, H., Kudo, K., Kawabe, S.
2. 発表標題 Geographical variation of the skeletal morphology in red jungle fowl and its morphological changes in domesticated populations
3. 学会等名 International Congress of Vertebrate Morphology 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Gunji, M. and Endo, H.
2. 発表標題 Growth pattern and functional morphology of cervical vertebrae in the giraffe, antelope, gerenuk ( <i>Litocranius walleri</i> ).
3. 学会等名 International Congress of Vertebrate Morphology 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Endo, H., Truong Son Nguyen, Dinh Duy Nguyen, Oshida, T., Motokawa, M.
2. 発表標題 Geographical variation of skulls of the northern and common tree shrew complex.
3. 学会等名 8th European Congress of Mammalogy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤秀紀
2. 発表標題 死体から読み取る進化と育種
3. 学会等名 第53回日本実験動物技術者協会総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤秀紀
2. 発表標題 身体を拘束する歴史
3. 学会等名 日本美術解剖学会「内臓の力」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松永萌，山本義雄，西堀正英，Sayed AM Osman，万年英之，米澤隆弘
2. 発表標題 在来鶏および改良品種の遺伝的構造と遺伝的多様性に関する研究
3. 学会等名 日本動物遺伝育種学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊池隼人，泉山茂之，押田龍夫
2. 発表標題 二ホンモモンガ における樹洞利用性の通年評価
3. 学会等名 日本哺乳類学会2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口 翠, 内海泰弘, 押田龍夫
2. 発表標題 天然生広葉樹林に生息するタイリクモモンガPteromys volansの基礎生態学的研究 - 資源利用生に着目して -
3. 学会等名 日本哺乳類学会2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木野々花, 内海泰弘, 押田龍夫
2. 発表標題 エゾナキウサギは昼行性か? 夜行性か? - 行動内容に着目した日周活動に影響する環境要因解析 -
3. 学会等名 日本哺乳類学会2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口 藍, 押田龍夫
2. 発表標題 エゾナキウサギは採食と貯食で餌資源を使い分ける? - DNAメタバーコーディングによる食性分析
3. 学会等名 2019年度日本生態学会北海道地区会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾針由真, 押田龍夫, 板垣匡
2. 発表標題 北海道におけるモノアラガイ科貝類の分布, 肝蛭感染および遺伝学的特徴について
3. 学会等名 北海道自然史研究会2019年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中井信介
2. 発表標題 生き物を「飼う」動機について タイ山村におけるモン族の暮らしから
3. 学会等名 生き物文化誌学会東京例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本郷一美
2. 発表標題 「肥沃な三日月弧」北部における家畜飼育の開始と周辺地域への伝播. 特別セッション 『文明の原点を探るII 筑波大学の西アジア調査から』
3. 学会等名 第24回日本西アジア考古学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 Kazunobu Ikeya and William Balee (eds.)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer Nature Singapore Pte Ltd.	5. 総ページ数 304
3. 書名 Global Ecology in Historical Perspective: Monsoon Asia and Beyond.	

1. 著者名 Nishioka, Y., Takai, M., Hongo, H. and Anezaki, T. (分担執筆)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 556
3. 書名 Interconnections of Humans and Nonhuman Primates in the Past	

1. 著者名 Nakai, S. (分担執筆)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer Nature Singapore Pte Ltd.	5. 総ページ数 304
3. 書名 Global Ecology in Historical Perspective: Monsoon Asia and Beyond.	

1. 著者名 工藤光平、武田精一郎、遠藤秀紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学総合研究博物館	5. 総ページ数 259
3. 書名 Collection Catalogue of Arts of Domestic Fowls (I). The University Museum, The University of Tokyo, Material Reports 131.	

1. 著者名 スミソニアン協会、ロンドン自然史博物館、遠藤 秀紀 (日本語版監修)、細矢 剛 (日本語版監修)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 416
3. 書名 MICRO LIFE 図鑑 美しきミクロの世界	

1. 著者名 スティーブ・パーカー、遠藤秀紀 (日本語版監修)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 240
3. 書名 カモフラージュ: 自然に隠れる生物図鑑	

1. 著者名 スミソニアン協会、ロンドン自然史博物館、遠藤秀紀(日本語版監修)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 416
3. 書名 ZOOLOGY 図鑑 動物の世界	

1. 著者名 Yatsuka, H. and Ikeya, K. (分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 198
3. 書名 Rethinking African Agriculture: How Non-Agrarian Factors Shape Peasant Livelihoods	

1. 著者名 Lin, L.-K., Oshida, T. and Motokawa, M.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Tunghai University	5. 総ページ数 165
3. 書名 Mammals of Taiwan. vol2	

1. 著者名 米澤隆弘(分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 278
3. 書名 日本の鱗脚類	

1. 著者名 中井信介 (分担)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 832
3. 書名 東南アジア文化事典	

1. 著者名 遠藤 秀紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 232
3. 書名 アニマルサイエンス2 ウシの動物学 第2版	

1. 著者名 猪熊 壽、遠藤 秀紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 240
3. 書名 アニマルサイエンス3 イヌの動物学 第2版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

東京大学総合研究博物館 遺体科学研究室  
<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/endo/>

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	池谷 和信  (Ikeya Kazunobu)  (10211723)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授    (64401)	
研究分担者	本郷 一美  (Hongo Hitomi)  (20303919)	総合研究大学院大学・統合進化科学研究センター・准教授    (12702)	
研究分担者	押田 龍夫  (Oshida Tatsuo)  (50374765)	帯広畜産大学・畜産学部・教授    (10105)	
研究分担者	恒川 直樹  (Tsunekawa Naoki)  (50431838)	日本大学・生物資源科学部・教授    (32665)	
研究分担者	園江 満  (Sonoe Mitsuru)  (90646184)	日本大学・生物資源科学部・講師    (32665)	
研究分担者	佐々木 剛  (Sasaki Takeshi)  (00581844)	東京農業大学・農学部・教授    (32658)	
研究分担者	米澤 隆弘  (Yonezawa Takahiro)  (90508566)	広島大学・統合生命科学研究科(生)・教授    (15401)	
研究分担者	中井 信介  (Nakai Shinsuke)  (90507500)	佐賀大学・農学部・准教授    (17201)	



## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山田 英佑  (Yamada Eisuke)  (30748968)	山梨県立博物館・山梨県立博物館・学芸員    (83503)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協 力 者	シティサン チョムナード  (Setisarn Chomnard)	チュラロンコン大学・文学部・准教授	
研究 協 力 者	ワングホングサ サワイ  (Wanghongsawai)	タイ国立公園局・天然資源環境省・研究員	
研究 協 力 者	ショーcongデイ ラスミ  (Shoocongdej Rasmi)	シラパコーン大学・准教授	
研究 協 力 者	ピンパチャンウオングソッド ヴィ エンサヴァン  (Phimphachanhvongsod Viengsavanh)	国立農業森林研究所・研究員	
研究 協 力 者	ングイエン トゥロン・ソン  (Nguyen Truong Son)	生態生物資源研究所・研究員	
研究 協 力 者	ゼイン モフ・シャムスル・アリ フィン  (Zein Moch Syamsul Arifin)	インドネシア科学研究所・研究員	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ファルーク・オマール ムハマド (Faruque Omar Muhammad)	バングラデシュ農業大学・動物遺伝育種部門・教授	
研究協力者	ラコトンドラパラニ フェリックス (Rakotondraparany Felix)	アンタナナリボ大学・研究員	
研究協力者	オズドアン メフメット (Ozdogan Mehmet)	イスタンブール大学・教授	
研究協力者	袁 靖 (Yuan Jing)	復旦大学・教授	
研究協力者	プラセティジョ アディ (Prasetijo Adi)	ディボネゴロ大学・講師	
研究協力者	ナ・ナン サッカリン (Na Nan Sakkarin)	ラジャマンガラ工科大学・講師	
研究協力者	劉 健全 (Liu Jianquan)	四川大学・教授	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ベトナム	生態生物資源研究所			
タイ	チュラロンコン大学	タイ国立公園局・天然資源環境省	シラバコーン大学	他1機関
インドネシア	インドネシア科学研究所 (LIPI、動物学博物館)	ディボネゴロ大学		
マダガスカル	アンタナナリボ大学			
ラオス	国立農業森林研究所			
トルコ	イスタンブール大学			
バングラデシュ	バングラデシュ農業大学			
中国	復旦大学	四川大学		